

令和7年度事業の評価と 令和8年度の取組及び今後の展開

福祉保健部高齢介護課

1 令和7年度事業の評価について

① モデル法人における職場環境改善事業

【評価】 モデル法人：さかえ福祉会 伴走支援事業者：ピーエムシー株式会社

- ・組織課題となっている離職を減らすことを念頭に、役職者が同僚や部下の要望や不安に耳を傾け、互いを承認する姿勢が育まれる組織へ変化するよう、ヒアリングとアンケートにより課題や要望等を明確にし、共通認識の醸成ができた。階層別研修や職員のメンタルヘルスケア等に取り組み、全職員それぞれの思いや悩み、不安や希望を言語化し、管理者がそれを受け止める体制を構築できた。）
- ・令和8年度は、モデル法人の取組の実績報告会を実施し、市内の介護保険サービス事業所を運営する法人全体へ働きたくなる職場環境整備の取組を波及させるとともに、各法人・事業所間の連携促進を図る。（資料4ページ）

② ICT・IoT活用に向けたデモンストレーション・機器展示

【評価】

- ・講演会やデモンストレーション・機器展示を実施し、導入プロセスや成功事例を理解し、機器に触れる機会を設けることで導入の動機付けとなった。生産性向上の目的や手法を学び、基本的な導入プロセスの理解ができ、ICT・IoT活用を再度検討する事業所への動機付けにつながった。
- ・令和8年度は、業務において円滑な連携や処理するため、ICT・IoT導入及び活用について、業務改善や生産性向上を目的とした伴走支援型のモデル事業を実施する。（資料2ページ）

③ 階層別職員研修

【評価】

- ・講義を踏まえ、その後グループワーク中心に研修を行うことにより、他事業所職員との意見交換や学びの場となった。

【令和7年度の研修後アンケート結果】

- ・勤務年数や役職ごとに分かれ、各々のお互いの悩みに共感でき、事業所に持ち帰って取り組める知識や技術を学ぶ事ができた。
- ・研修内で参加者の交流時間がもう少しあると、参加者同士の交流をもっと深めることができたと思う。 など
- ・令和8年度はアンケート結果を踏まえ、階層別のテーマ選定や交流時間の見直しを検討し開催予定である。（資料2ページ）

2 令和8年度事業について

(1) モデル事業所でのICT・IoT導入及び活用伴走支援モデル事業

【令和8年度 事業内容】(令和8年6月～実施) ← **令和7年度協議事項**

- ①ICT・IoT導入及び活用に向けた実態把握及び課題整理
- ②導入機器の選定 伴走支援を行う事業者の支援を受けながら、事業実施期間において、確実にICT機器等の導入及び活用ができるよう、機器等の選定を行う。
- ③ICT機器等の導入及び活用伴走支援を行う事業者の支援を受けながら、ICT機器等の導入及び活用を行い、職場内の生産性向上や業務改善等の介護サービスの質の向上を図る。
- ④市内他事業者への普及促進の協力、ICT機器等の導入及び活用について、他事業者からの照会等に応じる。また**令和9年度に開催予定の市内事業者への実績報告会において、事例報告を行う。**
 - ・モデル事業所 ホームヘルパーステーションうらだての里（重点職種 訪問介護員）
 - ・伴走支援事業者 公益財団法人 介護労働安定センター新潟支部

(2) 階層別職員研修（新人職員・中堅職員・管理者）

【令和8年度 事業内容】(令和8年9月～11月実施) ← **令和7年度 of 取組結果を踏まえ継続実施**

- ①**新人職員交流会（令和8年9月予定）**
新人職員が自己・他己理解を深めることで、職場における自己の役割と期待を理解することができる。
- ②**中堅職員交流会（令和8年10月予定）**
中堅職員が組織における自身の役割を再認識し、上司・同僚等の職場内の円滑な人間関係を構築できるよう、自分の意見や感情を率直に表現しつつ、相手の立場を尊重する基本的な考え方と実践方法を学ぶ。
- ③**管理者研修（令和8年11月予定）**
人材育成と定着に向けた心理的安全性の高い職場づくりのために、職員同士が安心して発言でき、成長できる組織環境の構築を図る。
令和8年度は全ての職員階層について、「コーチング」の基本理論を共通テーマとして学ぶことで、自発的な人材の育成やチーム全体の生産性向上などを目指すとともに、業務以外での他法人職員との交流を図ることにより業務への意欲向上を促す。

2 令和8年度事業について

(3) 外国人介護人材受入環境整備補助金：移動・日本語習得の補助

【令和8年度 事業内容】（令和8年5月～申請受付開始） ← **令和7年度協議事項**
【補助金申請実績】（令和8年6月15日時点）

申請事業所：3事業所（移動に係る費用のみ申請：2事業所、移動に係る費用及び日本語習得に係る費用を申請：1事業所）

・申請内容

外国人介護職員の居住地域から就業施設までの交通費（バスや電車の費用）や通勤手段として自転車購入に要する経費、日本語試験の受験費用や学習テキスト代
※予算300万円がなくなり次第、募集を締め切る。

【補助金額】

補助対象経費の2/3、1介護事業所につき、上限30万円とする。

※同一敷地内に複数の介護事業所を運営している場合、1つの介護事業所として数えることとする。

【補助対象経費】

①移動に係る費用

例) 外国人介護人材の通勤や日常生活等の移動に係る費用
送迎車のリース代、ガソリン代、デマンド交通代等

②日本語習得に係る費用

例) 翻訳機購入代、日本語学習テキスト代、日本語能力試験受験代等

2 令和8年度事業について

(4) モデル法人での職場環境改善：人材育成の取組・チームケアの向上

【事業概要】

法人における組織人事の課題を明らかにし、人材育成や生産性向上の取組への支援を行うことで、職場の心理的安全性及び働きがいの向上を図り、職員が自律的に働きたくなる職場環境の整備を行うもの。

【令和8年度 事業内容】

実績報告会の開催（令和8年8月19日（水）開催予定）⇐ **令和7年度協議事項**

モデル法人：さかえ福社会 伴走支援事業者：ピーエムシー株式会社

【事業評価】

1年間の伴走支援を通じて、対話から組織の課題を言語化し、課題の優先順位に関する共通認識を深めることで、モデル事業の後半には役職者間での認識共有が図られた。

具体的には、離職を減らすことを念頭に、役職者が同僚や部下の要望や不安に耳を傾け、互いを承認する姿勢が育まれた。全職員を巻き込んだ実践では、それぞれの思いや悩み、不安や希望を言語化し、管理者がそれを受け止める体制を構築することに成功した。

スタートアップミーティングに至るまでのこれらの実践を通じて、法人が職員の意見を聞き、働きがいや働きやすさを高めるために「変わろうとしている」という姿勢は、確実に職員へ伝わったと言える。

【今年度の展開】

さかえ福社会の取組の実績報告会を実施し、市内の介護保険サービス事業所を運営する法人全体へ働きたくなる職場環境整備の取組を波及させるとともに、各法人・事業所間の連携促進につなげる。

2 令和8年度事業について

（５）外国人介護人材受入支援セミナーの開催：人材定着・確保 生産性向上

【目的】介護事業所の外国人材雇用促進や受入制度の理解を深めるため外国人の受入サポートを支援している機関等によるセミナーを開催する。

【概要】介護事業所に対して外部講師による外国人介護人材受入制度の説明や採用等に関する質疑応答並びに市内介護事業所で既に外国人介護人材を受け入れている法人による事例報告を行う。

（６）介護人材確保・採用力向上セミナーの開催：人材定着・確保 生産性向上

【目的】介護事業所の人材確保・採用力向上を目的として、介護分野や他業種における効果的な採用方法等を学び効果的な採用へとつなげることができる機会の提供を行う。

【概要】介護事業所が直面する人材確保の課題解消や自法人の魅力の再認識、介護分野以外の効果的な採用方法・PR方法の習得のためのセミナーの実施により、事業の持続可能性とサービスの質を確保し、人材確保や定着につなげる。

【今年度の展開】

・介護分野における採用時期に合わせ、テーマ別のセミナーを実施することにより、市内法人・事業所の人材定着・確保・生産性向上に向けた採用力の向上を図り、人材確保対策の強化につなげる。

【本日の協議事項 1】

・セミナーの開催時期や内容について（介護分野における採用時期に合わせた適切な各セミナーの開催時期の検討、採用力向上セミナーについて、実効性が高いと考えられるセミナーのテーマや講師などを検討）

2 令和8年度事業について

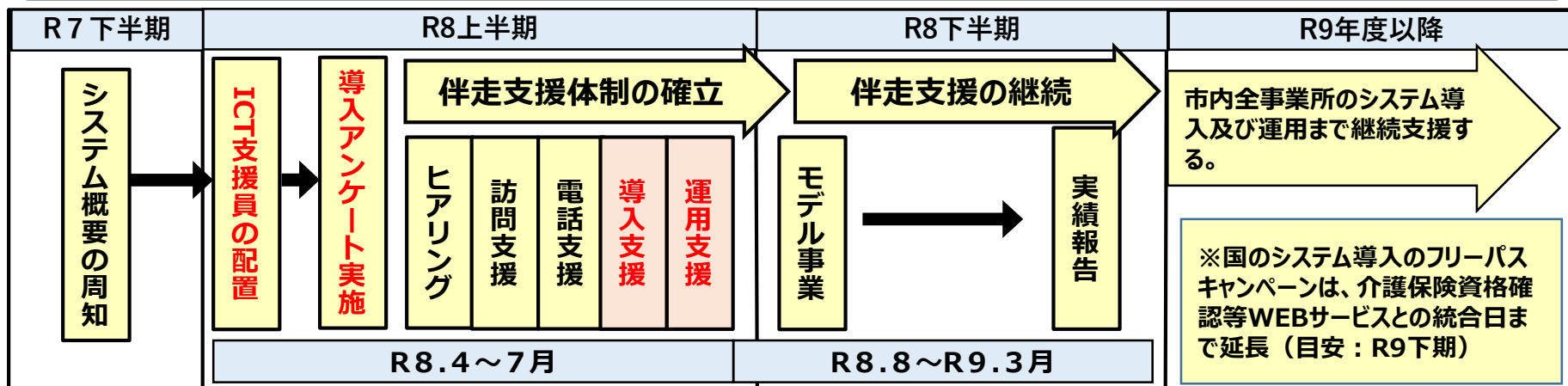
(7) 重点職種(ケアマネジャー)等の業務効率化による負担軽減 ← 令和7年度協議事項

【事業概要】

介護事業所全体の生産性向上や業務改善を図るため、市内全事業所における業務負担軽減や経費削減を目的とした**ケアプランデータ連携システム等の導入及び定着**のための支援を行う。

【事業内容と課題】（導入事業所数 令和8年1月末：6事業所⇒令和8年6月中旬：73事業所）

- ・令和8年4月にICT機器支援員を配置し、ケアプランデータ連携システム導入状況についてのアンケート調査を実施するとともに、市内介護事業所へのヒアリングを実施し、システム導入事業所の使用状況や他事業所との連携状況を確認中である。
- ・令和7年度以降の補助事業の申請や加算算定の要件に本システムの導入及び活用が組み込まれ、導入申請の実施事業所数が増加傾向にある。
- ・未導入または検討中の事業所においては、現時点では明確な導入効果や既導入事業所との連携方法が分からない等の問合せが多く、既導入事業所での成果を示すことで、効果を実感してもらう必要がある。



【今年度の展開】

モデル事業では、先行導入した事業所のシステム活用による効率化のデータを収集・分析し、その成果を市内事業所へ実績報告し、取組を波及させることで、市内事業所全体へシステム活用による効率化を推進する。

2 令和8年度事業について

(8) 介護の魅力発信

【令和8年度 事業内容】

・介護人材確保の取組等のアピールによって、働きがいのある職場環境づくりや地域の魅力向上にもつながり、採用活動にも好影響が期待できるため、市の介護業界のイメージアップに向けて、介護人材確保の取組全体や市内介護事業所の特色等を情報発信していきたい。

・また、法人ホームページへのアクセス数と採用実績との関連性や、法人の特色や取組をどのような手法で介護の魅力発信につなげることが有効であるか等の先進事例の情報提供や、外部講師による研修会の開催を通じて、市内法人のホームページ・SNS活用の情報共有や情報発信のスキル向上につなげたい。

【法人における情報発信に関する課題】

- ・法人の特色が伝えにくい、他法人との差別化ができていない。
- ・専門知識がなく、ホームページやSNS等の更新や管理方法が手法を知りたい。
- ・採用対象に合わせた採用戦略を検討する必要があるが、法人内で検討できていない。

【本日の協議事項 2】

「各法人・事業所の情報発信方法」についての情報交換を行い、「ホームページやSNSを活用した効果的な取組」について、検討する。